

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人関記念栃の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569-1		
自己評価作成日	令和 元 年 8 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 10 月 23 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 元 年 9 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の性格や習慣を理解して共同生活の中、トラブルや危険を回避できるように事前に案内する等の配慮しながら対応に当たっている。又、接遇は全てのことに対応されることから毎月、目標を設定して利用者中心の生活支援に努めている。限られた環境の中で生活が一元化しないように毎月担当者を決め、利用者・職員で行事を企画して地域との交流が図れるよう努めている。御家族様には日々の生活の様子を知っていただきたく、毎月「生活の一こま」「いしばし通信」を送付して、日頃の状態をお知らせしている。遠方であっても安心していただけるよう努めている。又、近隣に同法人の福祉施設があり、行事、災害時等いろいろな場面で相談、支援を受けることが出来、心強い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市北部の宇都宮市との境界近くに位置し、周囲には緑が多く、閑静で落ち着いた暮らせる環境にある。食堂兼リビングは広くゆとりがあり、絵画や置物等が飾られている。また、居室と併せ空調設備や床暖房が整備され、利用者が年間を通じて快適に過ごせるよう配慮されている。隣接する同法人のデイサービスセンターや特別養護老人ホームとは行事や緊急時には協力をし合うなど連携が図られている。日常の支援においては、法人の基本理念及び事業所の理念の下に、利用者を敬い優しく笑顔で介護の実践に努めている。「よく聞き、良く伝える」を念頭に置いて、家族には利用者の毎日の生活状況を書類で毎月報告し、意見や要望の把握に努め、運営に反映させている。地域とのつきあかも積極的に、自治会や育成会への協力、小学生やボランティアとの交流の他、主催行事には地域の人達の参加がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念とグループホームのケアの理念を事業所内に掲示して毎日始業時に全員で唱和することで新たな気持ちで利用者に向き合うよう心掛けている。	開設当初に職員全員で作成した理念は、うさぎのような大きな耳で利用者の声を良く聞き、優しく笑顔で寄り添うケアを実践するというもので、職員は法人の基本理念と併せ、良く理解の上共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。広報誌や回覧板を通じ地域の情報をご利用者と共有している。自治会のお神輿や育成会廃品回収等に協力。市や学校行事の招待、見学に参加。施設でのボランティア、慰問等の行事時近隣の方へ声かけ、招待している。	自治会に加入し、広報誌等を通じ地域の情報を得ている。小学校の行事に招待されたり自治会のお神輿が回ってくるほか、育成会の廃品回収に協力している。各種ボランティアの訪問や近隣の人から花や野菜の差し入れもある。事業所の行事に地域の人達が参加するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学、認知症サポーター実践研修の場として研修受け入れや相談、認知症の人の理解や支援方法等アドバイスしたり施設紹介等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを持つことで情報の共有や介護に対する多面的な視点を持てるようになり介護に役立っている。又、新しい事業や取り組み等の概要紹介等受け参考にしている。	会議では利用者の状況やサービスの実施等について説明している。出席者からは地域行事や防災対策等に関する意見や介護に役立つ情報の提供があり、サービスの向上に活かしている。	より多くの家族やメンバーが参加しやすいような工夫とともに時には様々な職種の人達の参加を働きかけ、幅広い意見をサービス向上に活かす取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には高齢福祉課や包括支援センターの職員の参加をいただき、施設の状況やご利用者の状態、サービス内容など報告している。又、ご利用者の状態変化に応じ介護度の見直し、更新の相談等行っている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員が参加し、利用者の状況や事業の実施状況を報告している。意見交換では新たな情報や意見等ももらっている。日頃から情報交換や指導を受けるなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で、身体拘束の具体的な事例や行為を確認し、行わないための話し合いを持ちケアに努めている。玄関の施錠については家族の意見を聞き、ご利用者の安全第一と考え時にはロックしている。	身体拘束については内部研修により理解を深めており、マニュアルの活用と併せ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉使いについても「禁句集」により周知し、精神的な抑圧等がないよう取り組んでいる。職員アンケートにより見直しを行い、最良のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月接遇委員会にて職員の言動や対応、家族からの意見、クレーム等を各施設のリーダーが話し合い、施設内での虐待や不適切な対応が見過ごされないよう努めている。特に言葉使いには禁句集を使い注意を払っている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が理解できるよう外部研修に参加するようにしている。現在は利用する方はいないが必要があれば利用を進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について納得いただけるまで説明、確認していただいている。解約時も同様に内容理由が納得していただけるよう説明している。一部改正時は案内状を送付、説明、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート用紙を設置して誰でも自由な意見をいただけるよう配慮している。又家族様ご本人様については定期的にサービス内容の評価を頂いたり、日常的に可能な限り対応している。	利用者からは入浴時等に不満や要望を聞きとり、職員間で共有するとともに、検討したうえで改善策を伝えている。家族には「いしばし通信」のほか利用者の生活状況を記録した「毎日の一コマ」を毎月送付し、意見や要望の出しやすい環境づくりに努めている。毎年家族アンケートを実施し、運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの他、気付いた時にいつでも相談できる雰囲気作りを行い意見交換の機会を増やし話し合いにつなげている。その内容は会議録や連絡ノートを利用して全員に周知している。	管理者と職員とは日頃から話しやすい関係ができており、日常の業務の中での意見等はその都度話し合っている。また、職員会議やミーティングにおいても意見等を聞いて運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期契約更新時には個々の契約内容や意思の確認を行ない、契約を交わしている。随時勤務形態の相談、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば外部研修への参加を促し、スキルアップにつなげている。研修会の内容は復命書や職員会議での報告等の回覧で参加しなかった職員への波及を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネージャ協会の研修会や同法人の研修会、行事参加など常に交流を図っている。イベントを通じ、他の施設を知る機会でもあり、参考にする点もある。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談受付から入所まで継続的に状況把握の連絡を行い本人、家族の状況を把握している。又、担当ケアマネージャーの意見など参考にさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居案内の説明や見学等ご本人との相性、不安に思っていることなどお聞きして、納得できるまで見極めていただき、その中で施設で出来る事 出来ない事を丁寧に説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時間き取り調査にて、現状と今後の支援の方向について確認し、適切な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する仲間を意識して助け合い、声かけあう関係づくりを行っている。新聞の購読やテラス散歩等気の合うもの同士声を掛け合って営まれる日常習慣、気遣い。入浴順番の声かけなど自主的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の一こま、いしばし通信を毎月送付し、ご利用者の様子をお知らせしている。状態の変化が見られる時も連絡して、緊急事態に備えている。通院や理髪等家族と外出できる方は出来るだけ行っていたりよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味としているご利用者は会に出席されなくても郵送で出品添削を受けて、展覧会にも出品している。又これを見学に行く。又、近くにお住まいの友人を行事などに招待し交流を深めている。馴染みの美容院への送迎等支援している。	家族や友人の面会や主催行事等で馴染みになった人達との交流を大切にしている。短歌を趣味としている利用者の出品等の支援や、美容院等への送迎も行っている。地域のお祭り等に参加し知人と旧交を深めることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリやレクリエーション、行事の中でそれぞれの特性を考慮して特性が生かせるように配慮している。合唱では合わせて歌う。ゲームではルールを守る。歩行練習では譲り合うなど皆が楽しく過ごせる様に支援している。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供を行い、住み替え後、ストレスが少なく過ごせる様支援している。ご家族にも納得されるまで時間をかけて対応している。転居後も機会があれば面会やご様子を伺う機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや感じ方がちがうので会話の中から希望や意向、不満や心配を把握して職員同士情報の共有を測っている。気になる話は個別に対応、家族に相談する事もある。	入浴時や夜勤時などの1対1での支援時の会話により、希望や意向、不満や心配ごと等を把握するよう努めている。家族や友人等に会いたいとか、趣味に関する事など、利用者個々の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人、家族への聞き取りやプラン作成アセスメント時趣味や暮らし方について聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や温度板、ケアプラン実施記録等を参考に日常の過ごし方を把握している。特に入浴時は身体状況や心の内を話して下さるので、職員間で情報共有している。出来ない部分の支援に心がけ、無理強いせず個々の過ごし方を優先している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の変化に対応して、それぞれの意見を集約して、少しでも改善に向けて取り組んでいる。家族や本人の意向も確認しながら作成している。定期的なモニタリング実施している。	利用者の毎日の状況を記録し、それぞれの変化に対応している。家族あてに利用者の状況を毎月報告し、面会時や計画変更時に意向を確認している。家族の要望や担当職員の意見を反映し、利用者の状態に配慮した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は日勤帯と夜勤帯を色分けして記入し、特に変化があるときは連絡ノートに記入、朝のミーティングで話し合い、職員間で情報共有している。ケアプラン見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況により通院、薬取り、訪問診療の手配等要望に応じて行っている。又、買い物、気分転換ドライブ、散歩等の付き添い等、突発的な事も対応を積極的に行うようにしている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回傾聴ボランティアの訪問を受け、顔なじみもでき楽しみにしている。ボランティアは地元の方が多く参加しており知り合いの方と交流する機会でもある。行きつけの美容室は本人を良く知り、送迎をすれば付き添いなくても、対応して下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診を支援している。受診困難な方は往診や歯科訪問診療を依頼している。往診時は日頃の状態を伝え、相談している。家族様には結果を随時報告している。又、受診時家族が伝えにくい細かい情報は事前にFAX等で情報を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	従来のかかりつけ医での受診を基本としているが、受診困難な場合は往診や歯科訪問診療を依頼している。受診状況等の情報は家族及び主治医と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師は在駐していないので必要時は法人内の看護師に相談、アドバイスを受け次につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に状態を確認しながら退院時の受け入れに万全を期するようにしている。必要であれば退院時のカンファレンスに出席する事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時施設で出来る事できない事の説明をさせていただき、重度化した場合は家族様と今後の方向性について話し合い検討している。本人や家族の意向を考慮しながら特養など他の施設への住み替えを検討支援していく。	利用開始時に家族等と話し合い、重度化した場合等の事業所の対応を説明し、利用者及び家族の意向を聞いている。重度化した場合は家族の意向を考慮した上で方向性を検討し、同法人が運営する特別養護老人ホームへの住み替えを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応について学んでいる。参加できない職員も資料の配布等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる場面を想定した避難訓練を毎月実施している。近隣の協力委員を含めた通報訓練や職員対象の召集訓練、又、消防署、消防団の協力を得て行う総合避難訓練、通報訓練等で指導を受けている。雨水時の避難行動の確認を行った。	消防署指導の下に法定の総合訓練を実施している。独自に夜間や様々な場面を想定した避難訓練を毎月実施し、災害時への対応力向上に努めている。地域の住民が協力者となるなど協力体制を築いている。食料等の備蓄も整備している。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に毎月反省、目標を決めて取り組んでいる。職員は目標に向かい全ての生活場面で実践し気遣っている。認知症を理解すると共に敬意を持って対応出来るように努めている。	利用者には苗字に「さん」付けとしており、介助や誘導の際の声かけに配慮した対応を心がけている。接遇委員会を中心に毎月目標を掲げ、利用者には敬意を持って接し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い、否定せず傾聴に努めている。会話の中から真意をくみ取り、ストレスを抱えないように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状態に応じてリハビリやレクリエーション参加を促している。ゲームや歌、頭の体操などいくつかの過ごし方を提案し、何を行うか、その日のメンバーや気分を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備が可能な方はご自分で準備していただき、出来ない方は一緒に準備して確認しながら行っている。整理整頓ができるようにタンスにラベルを貼り、収納しやすいようにしている。好みの化粧品やスプレー等継続使えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターで収穫したゴーヤで佃煮を作ったり梅ジュース、シソの実漬け、干し柿作り等旬の食材を使い工夫している。好き嫌いのある人には代替を提供。行事や誕生会などには特別メニューやリクエストメニューを準備している。テーブル拭きや食器拭きなど個々の出来る事をお願いしている。	利用者の好みや希望等を考慮し、美味しい食事を心がけ職員が調理している。食材は主に業者から調達しているが、事業所内で収穫した野菜類を使う時もある。誕生会の特別メニューや外食等は利用者の楽しみとなっている。後片付けや食器拭き等を手伝う利用者もいる。昼食時には懐メロが流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調にあわせ食事形態を変えている。毎日の摂取量を確認し健康管理に努めている。お茶の他に個々の嗜好(コーヒー、ヤクルト)を考慮して提供している。毎日乳製品を取ることで快適な排泄を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが習慣になるように、必要に応じ声かけ見守り案内を行ない支援している。口腔内のトラブルは受診を促す。又訪問診療も受け入れている。リハビリでは健口体操、パタカラ体操等取入れて、機能低下予防に努めている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートから個々の排泄パターンを把握し、排泄行為がスムーズに済まされるよう早めの声掛けや羞恥心に配慮した対応を行っている。後始末が不十分な方には声掛け、支援させていただいている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛け誘導に努め、利用者個々に合った支援を行っている。リハビリパンツやパッドを使用してもほとんどの利用者がトイレでの排泄となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳を提供している。又個々により乳酸菌の多く含まれるヤクルトの摂取や服薬調整、運動、水分補給等で、出来るだけ自然排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/週の入浴出来るようにしている。入浴日や時間の変更は個々の都合に合わせて対応している。行事等で入浴時間が変更になるときはそれぞれに確認を取っている。	入浴は週3回、午後の時間帯を基本としているが、利用者の希望等により柔軟に対応している。拒否傾向にある利用者には対応を工夫している。浴室で職員との会話を楽しんだり、季節によりゆず湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせ、自室でくつろげる環境を整えている。日中は居間でくつろげるようテレビや新聞、運動が出来るように配慮している。長い昼寝をしないように適時声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表にて内容、効能、副作用など確認している。誤配がないように準備する人、与薬する人を変えて再確認している。状態の変化については申し送り、朝のミーティングで報告して、家族や主治医に相談、指示を仰ぐこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の短歌の投稿や文化祭への作品出品。特技を活かした生活用品作成(チラシのゴミ箱、はし入れ折り、雑巾縫い)、カラオケ、お使いの時のドライブ同行等気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理髪や買い物等出来るだけ希望される日に出かけられるようにしている。特別な誕生日など希望があれば外出支援を行っている。オレンジカフェにて交流の機会を図っている。又法人内の行事に招待を受け外出の機会を得ている。	利用者の希望により買い物や美容院に出かけたり、誕生日に外食に行くなどの支援に努めている。法人内の行事や小学校の運動会等に招待されたり、地域のお祭りにも出かけている。オレンジカフェに参加したり、季節により観光地やお花見などにも出かけ、県外への日帰り旅行も実施している。	

認知症高齢者グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかい程度のお金を管理している方は3名、ほとんどの方は自己管理が難しい為、預かり金として1万円程度の中から職員と共に管理している。年2回家族に預かり金収支報告書にて確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話取次ぎをする他、携帯電話や直通を引かれる方もいる。希望があれば手紙の郵送を支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感の飾りやお花を生け楽しんでいただいている。床暖房設置、年間を通じ快適な空調設備を整えて快適に過ごしていただいている。	玄関フロアや食堂兼リビングには絵画や置物等が飾られ、季節の花が潤いや季節感を感じさせている。室内は広くゆとりがあり、天窓からの光で明るく、落ち着いた空間となっている。床暖房や適切な空調により、利用者がソファなどで快適に過ごせるよう整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが目的にあった過ごし方が出来るよう新聞、雑誌、DVD、CD、マッサージ等いろいろなアイテムを揃え、必要に応じ提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々が慣れ親しんだ使いやすい物を準備され、本人、家族も気兼ねなく過ごせるようにしている。外から見えないようにカーテン設置希望者にはカーテンをするなど対応している。	居室にはエアコン・洗面台・ベッド・タンス・クローゼット・床暖房が備えられ、利用者が快適に過ごせるようになっている。利用者には使い慣れた家具類や日用品等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。食卓にもネームをつけ、席に着けるようにしている。トイレの案内板をつけ自立した排泄やタンスにラベルを貼り自己管理を促している。		